



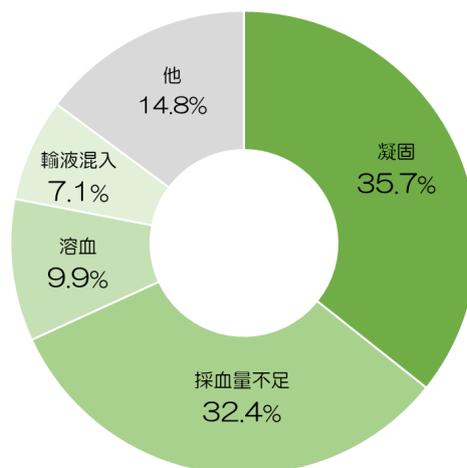
MENU

1. 再採血が必要になるのはどんな時？
2. 採血時の注意点～再採血を減らすために～
3. 夜間・休日に預かることができない検体
4. CBC検査結果の「要精査」って何ですか？

1. 再採血が必要になるのはどんな時？

正しい検査結果を得るためには、採血に代表される検体採取が適切に行われることが重要です。採血時に不備があったり採血後の処理が不適切だと正しく検査を実施することができず、再採血をお願いすることになります。今回、再採血が必要となった事例について集計を行ったので、ご紹介します。

再採血が必要となった事例



(2021年3月～2021年6月集計)

次ページでは、「凝固」「採血量不足」「溶血」「輸液混入」が検査結果におよぼす影響と、それらを防ぐために注意すべきポイントをご紹介します。

お問い合わせ：生化学検査室 内線36430

2. 採血時の注意点 ～再採血を減らすために～

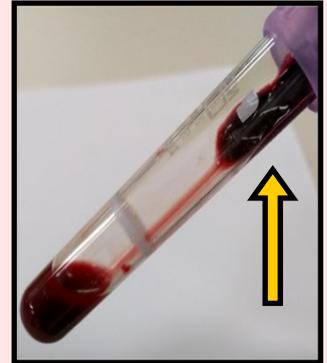
凝固

凝固は採血管内で血液が固まって塊ができています。

影響 凝固・線溶、赤沈、CBC、HbA1cなどの検査はできません。

採血時の注意点

採血後ゆるやかに5～6回転倒混和
採血に時間を要すると凝固しやすくなるため、なるべく速やかに行う
標準採血法ガイドライン GP4-A3



凝固検査のTAT*1のみが上昇し、臨床症状と合わない場合は、採血の影響の可能性があります。



*1 TAT：早期の凝固活性マーカー

*2 SF：TATの後に反応する凝固活性マーカー

採血量不足

凝固・線溶検査と赤沈検査は、規定量の血液を採血することが重要です。

影響 凝固・線溶、赤沈検査は測定不可

採血量の目安

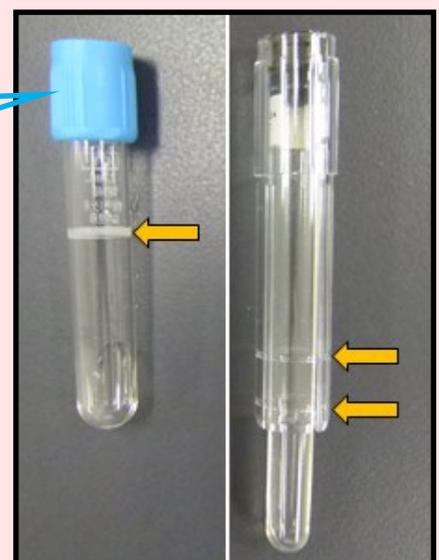
採血時の注意点

規定量を採血する（右図）
凝固・線溶検査：白のラインまで
赤沈検査：ラインの間

※翼状針採血ではチューブ内の空気が混入して正しい採血量にならないため下記が有効

- ① 2本目に採血する
- ② あらかじめ空の採血管で空気を抜いた後に採血する

まもなく採血管変更になります。



凝固線溶検査

赤沈検査

標準採血法ガイドライン GP4-A3

2. 採血時の注意点 ～再採血を減らすために～

溶血

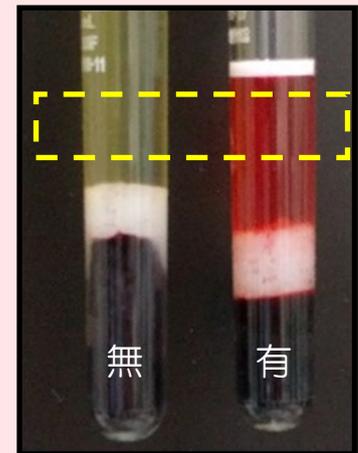
溶血は赤血球が壊れている状態です。採血管内における溶血は採血時の手技に起因して起こることが多いとされています。

影響 偽高値 – LD、K、AST、NSE など
偽低値 – ACTH、BNP、インスリン など

採血時の注意点

皮膚の消毒後、十分乾燥してから穿刺を行う
23Gより細い針は極力使用しない
採血管には規定量の血液を採取、分注する
転倒混和の際、血液を泡立てない

標準採血法ガイドライン GP4-A3



輸液混入

採血時に輸液が混入した場合、輸液の種類や成分によって検査結果にさまざま影響をおよぼします。下記に一例をお示しします。

影響 希釈による検査値の低下
輸液内成分による検査値の変動
凝固検査値の変動
⇒ ヘパリン混入時

採血時の注意点

輸液ルート側からの採血は極力行わない

※やむを得ず行う場合

三方活栓などの混注口から一定量の血液を注射器で吸引した後、別の注射器で目的量の血液を採取する（輸液の混入を極力防ぐ）

標準採血法ガイドライン GP4-A3

糖質・電解質輸液混入事例

	混入なし	混入あり
TP	6.5 g/dL	4.8 g/dL
ALB	4.0 g/dL	2.8 g/dL
Na	140 mmol/L	115 mmol/L
K	4.2 mmol/L	6.8 mmol/L
Cl	105 mmol/L	92 mmol/L
GLU	100 mg/dL	625 mg/dL
Hb	12.4 g/dL	7.2 g/dL

ヘパリン混入事例

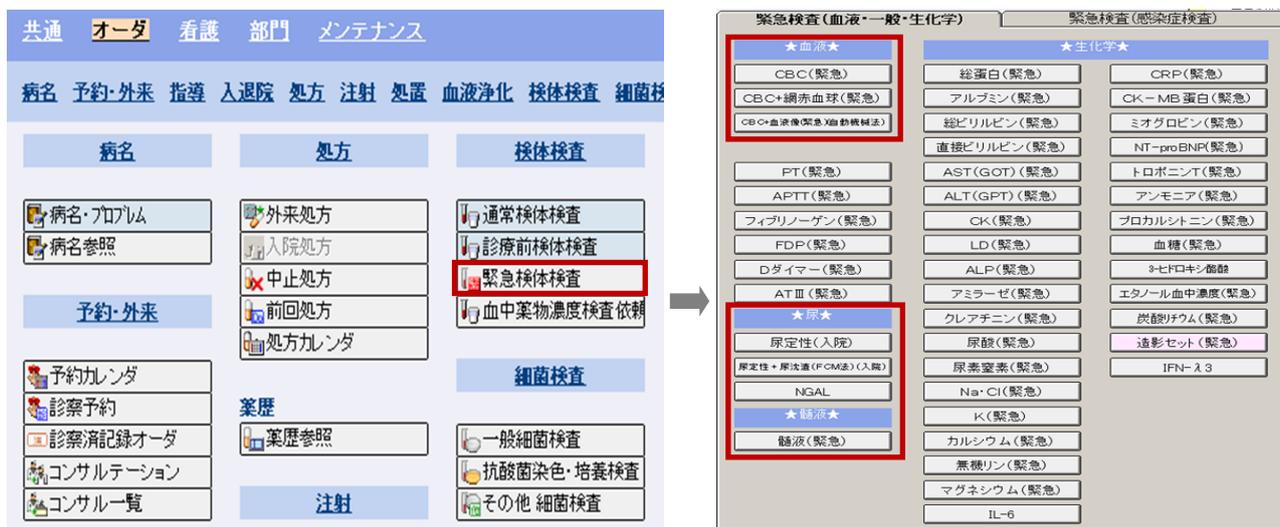
	混入なし	混入あり
APTT	34.5 sec	>150.0 sec

お問い合わせ：生化学検査室 内線36430、血液検査室 内線36440

3. 夜間・休日に預かることができない検体

基本的に、夜間・休日の通常検査検体の提出はお控えください。緊急検査のオーダーがありますので、緊急検査のオーダーラベルを張って提出してください。

通常検査のCBC、尿定性+尿沈渣、髄液



緊急検査オーダー方法



通常検査ラベル



緊急検査ラベル

◇マークが緊急検査ラベルです

一般スピッツ（髄液以外）

細胞成分が変性するため、仮に検体提出されても検査結果は参考値です。

お問い合わせ：血液検査室 内線36440、尿検査室 内線36490

4. CBC検査結果の「要精査」って何ですか？

血球数や白血球分画などの検査値に何らかの異常があったことを測定機器がお知らせしています。原因を精査するために「通常検査のCBC+血液像（鏡検法）」のオーダーをお勧めします。

お問い合わせ：血液検査室 内線36340

広報委員：古谷桃子、村井良精、望月真希、安井謙司、田中真輝人、片山雄貴